太鼓ベースを取り入れた新しいベースボール型教材の研究

木下　創平　　(生涯スポーツ学科・学校スポーツコース)
指導教員　森川　みえこ

キーワード：運動有能感，太鼓ベース(タイベン)，ベースボール型授業

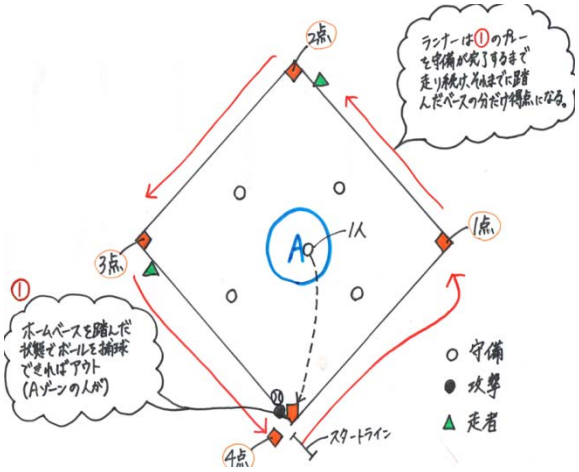
1．緒言

現行学習指導要領の小学校ボール運動領域において，ベースボール型は，ルールの複雑さ，運動量の確保，運動場のスペースなどの問題から，ゴール型，ネット型に比べ体育の授業での実践数が少ないという現状がある．よって本研究では「太鼓ベース」という簡易式野球のルールを用いたベースボール型ゲームの開発を行い，そのゲームが一教材として有効であるかを検討することを目的とした．

2．研究方法

対象：大阪市立 N 小学校児童(男女 22 名)
期日：10 月 22 日～11 月 6 日
内容：
１)運動有能感測定尺度(3 因子，各 4 項目，全 12 項目，5 段階評価)，全 5 回の単元の 1 回目，3 回目，5 回目の 3 回測定．
2)全単元終了後に「太鼓ベースを振り返って」の感想文を書かせる．
3)本研究で用いたルール(図 1 参照)

図 1



3．結果と考察

本研究では，従来のベースボール型ゲームに比べ，守備，走塁時の判断の簡易化と 1 人当たりの運動量を増やすことに着目した教材開発を行った．運動有能感測定の分析結果では，単元の 1 回目と 5 回目に身体的有能さの認知，統制感，受容感，各カテゴリーに高い効果は見られなかった．身体的有能さの認知について，効果がなかった児童 64.6%，効果があった児童 36.4%．統制感について，効果がなかった児童 72.7%，効果があった児童 27.3%．受容感について，効果がなかった児童 59.1%，効果があった児童 40.9%．この結果より，効果がなかった児童の要因として，本来ボール運動の苦手な児童への配慮不足と，有能感を高める上での時間不足があると考えられる．また，効果があった児童の要因として，ルールを簡易化した点と，1 人当たりの運動量を増やした点の 2 点があると考えられる．感想文の結果については，攻撃，守備，走塁，チームの全ての項目に，ほとんどの児童が肯定的に記述し，その中でも走塁において，各ベースに得点を設けたことが最も印象に残ったと考えられる．

4．まとめ

運動有能感の結果より全体的に見ると，本研究で用いた教材には 40%前後の児童に効果が見られた．また，感想文の結果より，ほとんどの児童が肯定的に太鼓ベースを捉えていた．このことから本研究は一教材として有効であると考える．

引用・参考文献

2)岡澤祥訓「運動有能感を高めるベースボール型ゲームの授業づくりティーボールの実践をもとに」